



2017年10月1日～10月2日（米国時間）にラスベガスにて開催された第18回NCRG Conferenceは米国内外の第一線に立つ臨床及び研究者が研究成果や最新の知見を発表する会合であり、今回、当法人の西村代表理事が招待され、RCPG同行者も含め参加した。カンファレンス期間中、セッション参加だけでなく、著名な研究者らとの意見交換の機会を多く得た。日本に対する関心は非常に高く、多くの質問を受けた。本レポートではカンファレンスの概要を報告し、詳細については別途メルマガにてお伝えしたいと思います。

## カンファレンス概要

NCRGについて	National Center for Responsible Gaming <a href="http://www.ncrg.org">http://www.ncrg.org</a>
名称	18th Annual NCRG Conference on Gambling Addiction
日時	2017年10月1日～2日
場所	The Venetian Las Vegas



会場のThe Venetian Las Vegas

## DAY1 (2017/10/01)

タイトル	講演者	概要
ギャンブル障害のスクリーニング、診察、測定方法と結果	Randy Stinchfield, PhD (University of Minnesota)  Harold Wynne, PhD (Wynnee Resources)	ギャンブル障害のスクリーニング等に関する最新のアプローチ方法の検証
切望や心がけとギャンブル	Hedy Kober, PhD (Yale University)	マインドフルネスによるクレイピングのコントロールに関する研究報告
精神性とメンタルヘルス	David H. Rosmarin, PhD (McLean Hospital)	宗教的/霊的な問題が精神病理学およびその治療法に関連しているかに関する研究成果
ICDとDSM-5に関する議論 ～ICD-11においてギャンブルは障害と分類されるべきか？～	Jon E. Grant, JD, MD, MPH (University of Chicago)  Jeremiah Weinstock, PhD (Saint Louis University)	ICDはDSM-5と同じくギャンブル障害を依存と分類すべきか否か
支援を求めている人たちの間で併発するギャンブル障害	Mark Albanese, MD(Cambridge Health Alliance)	薬物依存患者におけるギャンブル障害のスクリーニングを始めた薬物依存治療センターの事例紹介
ポスターセッション		34の研究成果をポスター形式で掲載。研究者と直接的にディスカッションを実施

## 当日の様子

NCRG代表 Alan M. Feldman氏



Hedy Kober氏



ポスターセッション



## DAY2 (2017/10/02)

タイトル	講演者	概要
ネイティブアメリカンの回復運動	J. Carlos Rivera (White Bison, Inc)	回復運動の歴史と依存に苦しんでいる ネイティブアメリカンとの関連性
ギャンブリングの次世代	Blaine Graboyes (Game co)	オンラインゲーミングやeSports等の 新たなギャンブリングに対して責任あ るギャンブリングやレギュレーション はどう答えるべきかに関する提言
DSM-5はギャンブル障害を病的なも のとみなすか	Jerome Wakefield, DSW, PhD (New York University)	医療/精神障害と、偏心的、非通常的 または苦痛に対する正常な反応である 正常な行動とを区別する方法に関する 問題提起
責任あるギャンブリングの政治学	Alan Feldman (MGM Resorts International)  Bo Bernhard, PhD (University of Nevada) 他	責任あるゲーミングプログラムが効果 的に機能するにはどうすればよいか
責任あるゲーミングに対する顧客と 従業員への教育	Heather Gray, PhD (Cambridge Health Alliance)	責任あるギャンブリングの慣行は、顧 客や人員の教育に重点を置いているが、 これらのプログラムは効果的かどうか
現実社会でのギャンブリング障害の スクリーニング	Seth Himelhoch, MD, PMH (University of Maryland School of Medicine)	薬物利用への介入サービスにギャンブ リング障害の介入を取り込むことに関 する可能性と有効性の研究報告
ゲーミングマシンにおける警告メッ セージは機能するのか	James Whelan, PhD (University of Memphis)  Luke Clark, PhD (University of British Columbia)	過渡なギャンブリングを緩和または排 除するための警告メッセージをゲーミ ングマシンに実装することの有効性に 関する研究成果
行動を変化させる動機とは	David Hodgins PhD(University of Calgary)	治療への抵抗と、助けを求める動機を 理解するための研究成果
健康調査とギャンブリングの統合	Randy Stinchfield, PhD (University of Minnesota)  J. Kathleen Tracy, PhD (University of Maryland School of Medicine)	既存の健康調査にギャンブルを統合す ることで、ギャンブルの問題と他の健 康問題との関係を研究する機会が研究 者に与えられることに関する提言

## 当日の様子

David Hodgins氏



Jerome Wakefield氏



会場からの質問に答える西村代表



